

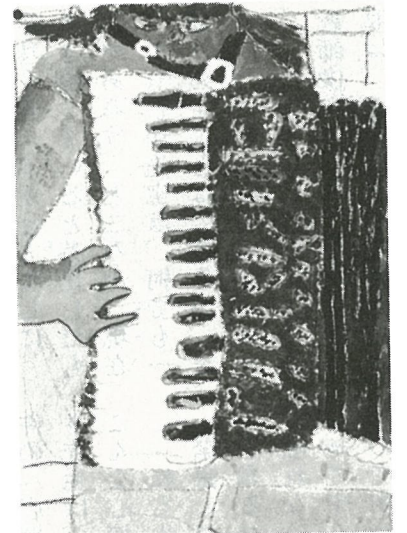


〔ちゃぼ〕



3年 川野宏子さん

鳥のはねを1枚1枚かきました。ふわっとした感じを出すのに苦労しました。



〔アコーディオンをひく友だち〕



4年 伊橋純平くん

アコーディオンの色を出すのに、いろいろな絵の具を混ぜるのがたいへんでした。



〔社〕

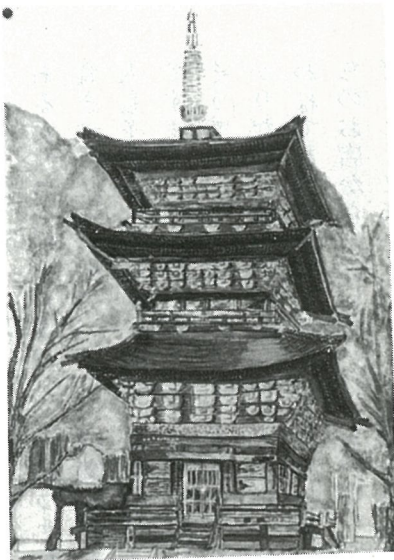
5年 鈴木幸子さん

むずかしかったところは、わらぶき屋根の色ぬりでした。



6年 行方由理子さん

三重の塔の屋根部分の複雑な作りや全体の古い感じを描くのに苦労しました。



〔芝山仁王尊〕



# ひかり歌壇

四肢を踏む力士次第に気合入り国技館内熱気溢るる

大木静波子 (篠本二区)

嫁の座をしかと守りて二十年吾娘の務めは今に変わらず

伊藤 定男 (尾垂五区)

四十六年待ち続けたる老妻のかすかに点けし口紅あわれ

藤代 敏子 (宮内)

地を這いて芽含む草々庭に摘み七草粥の糧に刻めり

青柳 フミ (橋場)

返したき言葉はあれどこみ上ぐる鳴咽おさえて座を外したり

伊藤 鏡子 (虫生)

ただ首を振りて答える今日の夫心の傷に触れず時待つ

椎名 静子 (二又)

ビニールの覆えの裡に透けて見ゆる金盞花の苗双葉となりぬ

土屋 好 (虫生)

衣も食も豊かになりぬ乏しさに吾子と耐えたる香き日思ふ

竹内 紀葉 (篠原)